

「後期高齢者の窓口負担の見直し」にあたり、
原則1割負担の継続を求める意見書採択についての請願

(要旨)

「後期高齢者の窓口負担の見直し」にあたり、原則1割負担の継続を求める意見書採択をお願いします。

(理由)

経済的な理由で必要な受診ができない高齢者が増えています。

高齢夫婦無職世帯では、生活費などが毎月約5.5万円不足し(総務省「平成29年家計調査報告」)、貯金を取り崩して生活せざるを得ず、また「貯金なし」の高齢者世帯は15.1%(「平成28年国民生活基礎調査」)にのぼるといのが実情です。

6月15日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2018」(骨太方針2018)では、「世代間の公平性や制度の持続性確保の観点から、後期高齢者の窓口負担のあり方について検討する」とされました。具体的には、医療費窓口負担を現行の原則1割から2割にする議論が始まっています。

年金収入も減るなか、後期高齢者の窓口負担の原則2割化は、治療が長期にわたる高齢者の生活を圧迫し、必要な医療が受けられない事態が深刻化します。

厚生労働省の社会保障審議会医療保険部会でも、2割化によって受診抑制が広がるなど、懸念する声も出されています。

また、高齢者の負担増は、介護に携わる現役世代の生活をも圧迫することになり、全世代に多大な影響を与えます。今、必要なのは高額療養費の限度額引き下げをはじめとする患者負担の軽減です。

上記のような実情に配慮し、後期高齢者の窓口負担について、原則1割負担の継続を求めます。

平成30年12月10日

飯塚市議会議長 藤 浦 誠 一 様

請願者



紹介議員

川 上 直 喜

教室エアコン設置に関する請願

(要旨)

子ども達の命と健康を守るため、来年の夏に間に合うように、飯塚市内の小中学校のすべての教室にエアコンを設置してください。

(理由)

今年の夏は、全国で記録的な酷暑となりました。

愛知県豊田市の市立梅坪小学校では、小学校1年生男児が熱中症で亡くなる出来事が起きてしまい、全国の教室にエアコンのない学校では、体調をこわす子どもが続出しました。

飯塚市では、7月のほぼ毎日、教室の温度が30℃台半ばに達しました。(市教委への各校の月例報告より)菰田小では、7月2日午後に39℃に達していました。

子ども達は、汗をぼとぼと落としながら授業を受け、体調をくずしたり、食欲がおちる子どももいました。やむをえず、エアコンのあるランチルーム・パソコン教室・図書室・視聴覚室で授業を行う学校もありました。

現在、市内の2つの小中一貫校、3つの中学校のエアコン設置が済み、来年の夏までに、2つの小中一貫校、3つの中学校、6つの小学校のエアコン設置が終了の予定です。

ところが、立岩、飯塚東、飯塚、高田、上穂波、鯉田、棕本、内野、八木山の9つの小学校は、来年の夏までの設置の見通しがたっていません。しかも、12月議会に出される工事計画を見ると、大分小、若菜小は大規模改修工事と併せるため、9月末までかかることになっています。親の願いは、どの子どもも安心して学校生活を送れるようにしてほしいということです。

よって、子ども達の命と健康を守るため、来年の夏前までに、すべての教室にエアコンを設置してください。

平成30年12月10日

飯塚市議会議長 藤 浦 誠 一 様

請願者

[Redacted]

紹介議員

川 上 直 喜